



この小ささこそ、オンリーワン

「桜島小みかんは、強い甘みももちろんですが、皮をむいた時に芳醇な香りがパッと広がる。それが、一番の魅力だと思います」と胡らかに教えてくれたのは、桜島柑橘ハウス振興会の会長を務めている白川隆さん。みかん農家として50年以上の経験を誇る大ベテランです。

直径は4~5センチ、重さ40~50グラム、糖度は12~13度。抜群の甘さと香りが特徴の桜島小みかんですが、以前は在来種として細々と作られているだけでした。白川さんが就農した1960年代は温州みかんが主流の時代。しかし、桜島小みかんに可能性を感じた白川さんが本格的に栽培を開始。高い評価を得たことで、栽培する農家が一気に増加し、今ではすっかり鹿児島を代表する特産品となりました。出荷の最盛期は12月。贈答用として高い人気を誇りますが、「自宅でもっと食べてほしい」と小学校への出前授業なども行っているそうです。

最近では「紅さくら」という新しい品種への転換を進めているという白川さん。少し赤みがかった果皮の色が鮮やかで糖度が高く、これまでの桜島小みかんより早く出荷できるのが特長です。とはいえ、まだ試行錯誤の段階。「これからも品質を落とさず、もっとおいしく作り続けていくこと。それが私たち生産者の使命だと思っています」と力強く語ってくれました。

白川 隆さん

桜島柑橘ハウス振興会 会長
桜島ブランド総合販売
促進対策協議会 会長



ブランド名に恥じない小みかんを作っていくみたい

坂元 克明さん
未奈子さん

桜島柑橘ハウス振興会



「いつになんでも作り続けられるよう、みんなで良くしていきたい」と克明さん。

埼玉から移住してきた坂元さんご家族。夫の克明さんは桜島出身で、定年後のリターンを計画していましたが「いつか戻るなら父親が元気なうちに」と考えて早期移住を決断。奥様の未奈子さんも、お子様と過ごす時間が増えればと承諾しました。

小みかん作りはまだまだ3年目。自ら開墾した畑には、背の低い苗木が150本ほど植わっています。現在は別の畑でハウスを借りて旬の野菜やブドウなどを作っており、来年3月にハウスを建てる予定のこと。「こんなに汗をかくことは今までなかった(笑)」と、農業未経験の未奈子さんも毎日たっぷりと汗をかいています。

以前からお父様が桜島小みかんを本格的に作っており、いわば最も身近な先輩。いろいろ教わっているのではと思うが、「もちろん聞いたら教えてくれるのですが、その前に父が私の畑で作業をしてくれているんですよね(笑)」と、ご家族の愛情を感じるエピソードを教えてくれました。「桜島小みかんは、鹿児島のそして桜島の大重要なブランド。そのブランドに恥じないよう、頑張って作っていきたいと思います」



Sakurajima Komikan Story

【桜島小みかん 出荷までの流れ】



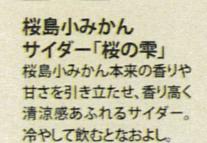
ネットでも、購入できます

ぱくぱく桜島

桜島ブランド協議会
公式オンラインショップ



Sakurajima komikan products



※道の駅『桜島』火の島めぐみ館や「おいどん市場与次郎館」など県内各地で販売中。

私たちさくらじま旬彩館は、JA鹿児島みらいの桜島小みかんを使ってさまざまな加工品を製造・販売しています。小みかんの商品は10種類以上。小みかんは酸味と甘みのバランスが本当に素晴らしい、私も大好きです。今後も新しい商品を販売していく予定ですので、ぜひお楽しみに!



中島 孝子さん
さくらじま旬彩館
代表取締役

nagomi | vol.11 | 2023 WINTER

アンケートはがき

Q1. JAが発行しているnagomiを何回くらい読んだことがありますか。
また入手方法を教えてください。

● nagomiを()回ぐらい読んだ事がある。

入手方法について ● 友人・知人 店舗 ()
JA職員 その他 ()

Q2. 今回のnagomiで桜島小みかんの魅力が伝わりましたか。

伝わった () なんなく伝わった () 伝わらなかった ()

Q3. nagomiを読んで桜島小みかんを購入して食べましたか。

食べた () 食べていない ()

Q4. Q3で購入された方へ 桜島小みかんを食べた感想をお書きください。

()

Q5. nagomi11へのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

()

*アンケートハガキを令和6年1月20日(土)までにご返送いただいた方に、抽選でプレゼントを差し上げます。